

地域の課題解決イメージ①: 島しょ部の産業振興と高齢者の健康増進に貢献したい!

授業	学びのステップ	フィールドワークの学び	ステップごとの考え方
卒業研究	<p>4年次</p> <p>3年間の学びを通じ地域の問題点の解決方法について考えたことをエビデンスにもとづいて省察・考察し成果としてまとめる</p>	<p>(どこで) 島しょ部 (期間) 任意期間 (何する) インタビュー、プレゼン</p> <p>1~3年次までで得た知識と情報を整理し、不足するエビデンスがあれば、再度現地で生産者や島民、資料館などを訪れて情報収集する。改善案や製品案を島民や企業へプレゼンし、フィードバックを行う。</p>	<p>課題解決方法を提案する</p> <ul style="list-style-type: none"> ●企業と連携して特産のレモンを活用した健康食品を開発してはどうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・製造工場の立ち上げ ⇨ 農業以外の雇用の創出 ・健康食品の普及 ⇨ 島民の健康寿命を延伸 ・食品の知名度UPで島をPR <ul style="list-style-type: none"> ⇨ 知名度を上げて島を知ってもらう ⇨ 島を知ってもらうきっかけにして、島への移住を促進
地域創生実習	<p>3年次</p> <p>実習先を定め実践活動に取り組む中で地域課題の解決方法について考える</p>	<p>(どこで) 島しょ部 (期間) 10日間 (何する) ディスカッション、インタビュー</p> <p>島しょ部の特産レモンを使った食品案を島民の方、連携先企業の方とディスカッションする。レモンの生産過程や食べ頃の時期、島ならではの食べ方を生産者・島民の方にインタビューして情報収集する。</p>	<p>島しょ部の課題解決方法を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ●訪問健康診断を行えば、移動が不自由な人も健康状態を把握できる。 ●高齢者でも体力を維持できる無理のない運動指導を行えば、健康状態を維持できる。 ●健康指導できる人を高齢者サロンに派遣して健康指導してもらう。 ●地元の特産を使った健康食品を創って、産業振興と健康増進を図る。 <p>島しょ部の課題について考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ●病院に通うことも大変なのでは？ ●一人暮らしの家では体力の衰えや健康状態に気づきにくいのでは？ ●健康を維持するために何をしたらよいか聞ける場所がないのでは？ ●島の高齢化が進み、島の産業の後継者がいないのでは？ ●そもそも働く場が少ないのでは？
地域創生演習	<p>2年次</p> <p>異なる地域を対象として、地域の特徴や課題を知る</p>	<p>(どこで) 島しょ部、商店街、都心・商業地 (期間) 5日 (何する) インタビュー、地域活動への参加</p> <p>それぞれのエリアの特徴を観察、インタビュー、地域活動に参加してステークホルダーとの交流をとおして地域の特徴や現状、課題の理解を深める。</p>	<p>島しょ部の特徴を見つける</p> <ul style="list-style-type: none"> ●公共交通機関が少ない ●レモン産業が盛ん ●漁業が盛ん ●高齢者が多い(若い人が少ない) ●病院や健康指導を行う場所が少ない
地域発見演習	<p>1年次</p> <p>様々な視点で地域の特徴を捉えることを学ぶ</p>	<p>(どこで) 島しょ部 (期間) 6日 (何する) まちあるき(観察)</p> <p>島しょ部の島で延べ6日のまちあるきを行います。まちあるきを通して、授業の中で学んだ視る方法を用いて地域の特徴を捉えていきます。</p>	<p>島しょ部の実態をとらえる</p> <ul style="list-style-type: none"> ●島の人々の主な移動手段は？ ●島はどんな地形をしているの？ ●島の文化は？ ●島にはどんな人たちが住んでいるの？ ●島にはどんな施設があるの？ ●島の特産品は？

地域の課題解決イメージ②: 地元の魅力で観光客を集めて地元を盛り上げたい!

授業	学びのステップ	フィールドワークの学び	ステップごとの考え方
卒業研究	<p>4年次</p> <p>3年間の学びを通じ地域の問題点の解決方法について考えたことをエビデンスにもとづいて省察・考察し成果としてまとめる</p>	<p>(どこで) 地方の町 (期間) 任意期間 (何する) インタビュー、プレゼン</p> <p>1~3年次までで得た知識と情報を整理し、不足するエビデンスがあれば、再度現地で生産者や町民、資料館などを訪れて情報収集する。改善案や製品案を町民や企業、町の人へプレゼンし、改善案を提案する。</p>	<p>課題解決方法を提案する</p> <ul style="list-style-type: none"> ●観光施設を「選手村」のような内容の「日本の文化」「町の文化」を感じれる暮らし体験型観光施設にしてはどうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・伝統的工芸品づくり体験の実施 ⇨ 産業の振興(インバウンドも狙う) ・町の特産品を使った日本料理のお店出店 <ul style="list-style-type: none"> ⇨ 町・日本の魅力(文化の)発信 ・宿泊施設、グランピング施設も併用して、長期滞在に対応 <ul style="list-style-type: none"> ⇨ 外国人観光客増 ⇨ 観光業創出による雇用創出
地域創生実習	<p>3年次</p> <p>実習先を定め実践活動に取り組む中で地域課題の解決方法について考える</p>	<p>(どこで) 地方の町 (期間) 10日間 (何する) ディスカッション、インタビュー</p> <p>町が計画する新しい観光拠点の開発計画に参画し、観光拠点で何を行うかアイデアだしのディスカッションを行う。 他の市町、県、国から来てもらえるような魅力発信内容やイベントなどについて、町民にインタビューを行い、魅力を発掘する。</p>	<p>町の課題解決方法を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ●新施設には駐車場をつける。広さの問題もあるため、立体駐車場にする ●主要なバス停から観光施設までのシャトルバスを運行させる ●伝統工芸を知ってもらうため、伝統的工芸品作り体験を行う。 さらに、町民は参加費用を格安にして、親しみやすくさせる。 ●1日で完成するモノづくりイベントと数カ月かけて通って完成させる「教室」形式のイベントを実施して、観光と町民への浸透を推進 <p>町の課題について考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ●町内の移動に車が必須だが、駐車場がない ●町が高齢化している ●伝統的工芸品産業の後継者がいない(高齢化している) ●町民の日常から伝統的工芸品の存在が遠くなっていつている。
地域創生演習	<p>2年次</p> <p>異なる地域を対象として、地域の特徴や課題を知る</p>	<p>(どこで) 市町、商店街、都心・商業地 (期間) 5日 (何する) インタビュー、地域活動への参加</p> <p>それぞれのエリアの特徴を観察、インタビュー、地域活動に参加してステークホルダーとの交流をとおして地域の特徴や現状、課題の理解を深める。</p>	<p>町の特徴を見つける</p> <ul style="list-style-type: none"> ●バスや鉄道駅がなく町内の移動が不便 ●空き家が多い ●商店街がない ●伝統的工芸品が特産品としてある(全国的に有名) ●小学校のころから授業などで書道や筆づくりに触れる機会がある
地域発見演習	<p>1年次</p> <p>様々な視点で地域の特徴を捉えることを学ぶ</p>	<p>(どこで) 地方の町 (期間) 6日 (何する) まちあるき(観察)、インタビュー</p> <p>広島県の町で延べ6日のまちあるきを行います。まちあるきを通して、授業の中で学んだ視る方法を用いて地域の特徴を捉えていきます。</p>	<p>1つの町を学びの場とし、町の実態をとらえる</p> <ul style="list-style-type: none"> ●町の人々の主な移動手段は? ●町はどんな地形をしているの? ●町の文化は? ●町にはどんな人たちが住んでいるの? ●町にはどんな施設があるの? ●町の特産品は?